

感染症情報 1月15日～21日

府下小児科198療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1136例(堺市	57例)
②溶連菌感染症	415例(堺市	23例)
③RSウイルス感染症	129例(堺市	10例)
④突発性発疹	68例(堺市	3例)
⑤咽頭結膜熱	40例(堺市	1例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 13428例(堺市 1084例)

が報告された。

感染症報告数は前週比11.4%増の1,906件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、突発性発疹、咽頭結膜熱の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より18%増、堺市で前週より68%増であった。溶連菌感染症は府下で前週より34%増、堺市で前週20例→今回23例であった。RSウイルス感染症は府下で前週比24%減、堺市で前週6例→今回10例であった。咽頭結膜熱は府下で前週比20%減、堺市では前週2例→今回1例であった。

インフルエンザは府下で前週6553例→今回13428例で105%増、堺市では前週532例→今回1084例で104%増となった。定点当たりでは前週が21.5で、今回は44.2となり、警報レベル開始基準値の30.0を超えた。

麻疹や風疹の報告はなかった。